

## 保育園あれこれ

大森 海太

以前にも書いたことがあるが、散歩の途中で保育園のみなさんに出会うのは最高に楽しい。午前中の明るい日ざしの中、保母さんに連れられ手をつないで歩いている無邪気な子供たち、手押し車に乗せられた小さな子たち。おしゃべりしたりキョキョキョ見回したり、声をかけるとニコニコして手を振ってくれる。保母さんも「有難うございます」と笑顔でこたえる。

なんという平和な光景だろう。これさえあれば、あとは何も要らないという気さえしてくる。それにひきかえ、権勢欲や金銭欲に駆られて愚行蛮行をやめない世界中のうすぎたない大人ども。首根っこを押さえつけて思い知らせてやりたいくらいだ。

ところで、この春ようやく小学校に入学したいちばん下の孫娘も、母親の育休明けからまるまる五年間、近所の保育園でお世話になった。

その昔、幼稚園さえ行かせてもらえなかった私は、いきなり小学校に入れられてずいぶん辛い思いをした記憶がある。それにひきかえ物心つかない乳幼児のころから、朝から夕方まで親元を離れて過ごす今の子は、友達たくさんで集団生活に馴染み、そのうちにいっぱしの生意気も言ったりする。昔の子供にくらべてマせているともいえるが遅しくもあり、保育園の有難味を痛感している。

とりわけ若い保母さんたちの働きには頭が下がる。朝早くから夕方遅くまで、小さな子供たちを預かって責任は重いし、目配り気配りをしながら皆を楽しませる。子供好きでなければ務まらない仕事だ。にもかかわらず何やら制度上の壁があって、幼稚園の先生に比べて処遇は低いそつだ。

最近少子化対策が大きな課題になって、子ども家庭庁なるものも発足したとやら。私など民間育ちの目から見れば、まずは手っ取り早く実効ある措置を取ったらどうかと思うのだが、どうもお上のやることは能書きや制度構築に時間と労力をかけ、まだるっこしく思えてならない。それよりも取りあえず保母さんたちの給料を上げることにしたらどうですかね。